

目指すは “生涯現役薬剤師”

田中 潤子様（85歳）

【誇りを持てる仕事】

薬学部を出て県庁で5年間働きました。結婚、子育てで仕事をやめて家庭に入りましたが、子供が中学校に上がる頃再び働こうと思いました。神戸には大正6年に日本のGNPの1割を売り上げた世界的な総合商社「鈴木商店」がありました。その主力になっていた薄荷事業と屋号を引き継いだ「鈴木薄荷」で、管理薬剤師として蒸留時の純度を分析する仕事に携わりました。純度が日によって変わる仕事はおもしろくやりがいもあり、一生懸命働きました。働くにつれこの会社の一員であることが喜ばしくなり、自社製品を見る度自分もこの中に関わっているのだととても誇らしい気持ちになり、今でもその気持ちは変わりません。



田中 潤子様

約40年勤め70歳近くなるとき一旦退職しました。しかし社長から頼まれ、実は85歳の今でも顧問として名刺を持っています。そのため薬剤師会の研修会に月1〜2回は参加し、専門誌も毎月読んでいます。そして認定薬剤師の更新もずっと続けています。日々新しくなっていく薬の世界は奥が深く、勉強はかせません。目標は「生涯現役薬剤師」。努力はありますが、いつも前を向いていたいと決めています。

【いつも支えてくれる主人】

仕事をしながらも、もちろん家事はしています。けれどどちらかと言うと料理はちょっと苦手です。主人はお寺さんの息子だったので、幼い時から「作ってもらった料理に文句は言わない」という環境で育ってきました。だから私が作った料理もいつも感謝して食べてくれます。これには私の方こそ主人に感謝です。また私が誉められると私より主人の方が喜んでくれます。主人の応援が、私の元気を引き出してくれます。7年前、たまたまバス停にいた時、隣にいた人達が「ゆうゆうの里って良い所よ」と話しているのが聞こえてきました。調べてみると、なんと診療所がある。数ヶ所問い合わせしてみたけれど、医師が常勤している施設はここだけでした。関東にいるひとり息子は忙しく、もしもの時世話になるのは無理だと考えていたので、すぐ主人に相談。私の気持ちを聞いた主人は賛成してくれ、ふたりで入居を決めました。主人が80歳、私が77歳の時でした。

【入居したからこそ、現役で頑張れる】

主人が最近少し弱ってきて職員さんの手を借りるようになりました。歩行器を使っている時は並んでゆっくり歩いてくれたり、一日数回薬の塗布のために訪室してくれたり、そして見守りもしっかりしてくれています。だから私は自分の時間を持ち、制約を気にせず行動しています。午後から夜にかけての研修会にも参加したり、大好きな絵を取り入れた作品を作ったり、充実した生活を続けられています。もし入居せず自宅にいたなら、ヘルパーさんを頼むにしても限られた時間だけなので、主人のことはほとんど私が手伝える毎日になっていたと思います。そうすると自分の勉強がはかどらず、それと共に好奇心や意欲も減り、今ほど私は生き生きと暮らせてはいないでしょう。そしてそういう私を見た主人も元気がなくなり、マイナスの循環がどんどん広がるかもしれません。こうしてサポートを受けてみて、入居していて本当に良かったと思います。「行ってらっしゃい」と主人に見送られ、これだけ好きなことをさせてもらい、働ける環境も応援もある。これほどありがたい人生があるのでしょうか。本当に良い人生。生涯現役、我が人生に全く悔いはなし、こう言い切れる幸せに感謝しています。



発案 なっとうあーと

納豆の蓋に描いています